**南大阪クラブ　教育資料　　　　2016年4月11日**

**評価コンテスト**

**１．評価コンテストの意義・目的**

　　　評価コンテストの場合は順位を決める上で相対評価の形がとられるが、

評価は、本来人と比べるものでなく到達度評価が原則である。

**意義：**参加者は、スピーチ内容を聴き取る能力を培い、自分の評価の改善点を発見し、効果的な評価者になる能力が身につく。

**目的**：評価される側は、忠告や賞賛の言葉から知識を得、評価者は、判断力や技術の向上を目指すことにより、日常においても効果的な評価者になり役立たせることができる。

**２．良い評価をするには**

・スピーチの目的を知る。

　論題　題目　カテゴリーを確認する。

　　・スピーカーが伝えようとしているメッセージ、文章の構成をしっかり聴きとる。

・スピーカーのITC歴を確認する。

　新入会員や初心者には特に配慮をする。

・与えられた時間を有効に使う。

　一番重要だと思うことを時間内に簡潔に発表する。

・スピーカーの上達に役立つよう心掛ける。

　　　　　良かった点をほめる（ほめすぎてはいけない）具体的にどう良かったかを述べる。改善すべき点も具体的に提言する。

・具体的で実際的な意見を述べる。

スピーチの一つの局面に重点を置きすぎないようにする。

　幅広く、調和のとれた、充実した評価をするよう心掛ける。

・やる気を起こさせる言葉で終わる。

**3．評価技術を学ぶ**

**評価とは、改善の為に、何を提言するか、どう伝えるかを絶えず自分に問いかけることが大切。**

・効果的な評価をするために評価者が持たねばならないものは・・・

・他の人々の意見に対する真摯な関心と敬意（客観性）

・役に立ちたいと真に願う心

・適当な落ち着き、自信、ユーモア

・考えを明確に表現する能力

・評価を受ける人のプライドを尊重することの大切さの認識

・人の話を理解し評価できるようになるために、心と耳とで聞く

・注意深い観察と分析的な聴き取り。

**＜まとめ＞**

　　　　評価を受ける人は、ITCの評価の意味を充分に理解する事で、評価を喜んで受け入れる態度を持つ事が大切であり肯定的に受け入れなければ評価は意味を持たない。

　　　　評価者は、客観的に観察して分析的に聴き、建設的な評価を具体的に述べる事。常に、スピーカーに対する思いやり、役に立ちたいと願う心を忘れない事。否定的に批判したり、辱めたり、おとしめたりする事があってはならない。

**4．コンテスト（実践）**

　　　　評価コンテストはスピーカーがコンテスタントになるのではなく、評価者がコンテスタントになるコンテストです。このコンテストは評価する際の技術や感覚を磨くように発案されました。

**役割担当紹介**

進行係（プログラムリーダー）

スピーカー　(1名) 　 　　　　 （ITC歴　　年）

コンテスタント（3名）　　　　　　 （ITC歴　　年）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　（ITC歴　　年）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　 　（ITC歴　　年）

ジャッジ（3名）　　　　　　　　　　・　　　　・

誘導係　（1名）

タイマー（2名）　　　　　　　　　　・

**スタート**

1. 評価の対象となるスピーチをする。

スピーチは7分（状況によって決める）以内で行う。5分でライトが点灯し30秒で消える。8分で止めの合図。

＊スピーチのタイム報告を行う。

1. ・評価者はスピーチが行われている間はメモを取っても評価用紙に記入

　しても良い。評価者同士の会話は禁止される。  
　（このとき、会場にいる参加者全員も、それぞれ評価用紙に評価を  
　　記入すると、全員の学習となる）

・評価者は、その後会場を出て評価の準備をする。

　（この間に　スピーカーの紹介をするとよい）

・誘導係が発表の順番を決めるくじを引いてもらう。誘導係は順番を進行係（プログラムリーダー）に知らせ　発表する。

・準備の5分間が経ったら1番目の評価者が発表会場へ導かれる。（残り2人の評価者は　外で待機する）

1. 評価者はスピーチに対して3分の評価をする。評価終了後席に着く。

・ジャッジは１分で審査を行う。終了時点で手を挙げ進行係（ＰＬ）に知らせる。

・誘導係は　続いて2番目と3番目まで一人ずつ会場へ案内する。

　 　＊評価者のタイム報告を行う。

４．審査

　　・ジャッジは外に出て審査を行う。評価者は全員前に出て審査を待つ。

　　　　（その間に、ＰＬは評価者の紹介をするとよい）

　　・審査結果をＰＬが発表する。

５．表彰

プログラム委員長が優勝者を表彰する。参加賞を授与する。

６．審査員のコメント

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **評 価 コ ン テ ス ト タ イ ム 表** | | | |
|  | | 時間配分 | 所要時間 |
| 教育　コンテスト説明 | | 10 |  |
| スピーチ | | 7 |  |
| タイム報告 | | 1 |  |
| 評価者発表準備 | | 5 |  |
| 評価コンテスト | 第一評価者（　　　　　 　） | 3 |  |
| 採点時間 | 1 |  |
| 第二評価者（　　　　　 　） | 3 |  |
| 採点時間 | 1 |  |
| 第三評価者（　　　 　） | 3 |  |
| 採点時間 | 1 |  |
| タイム報告 | | 1 |  |
| 審査　優勝者決定 | | 4 |  |
| 審査結果発表　表彰 | | 3 |  |
| 審査員コメント | | 6 |  |

計時係　　　　　　　　・

|  |
| --- |
| 評価の評価シート |

スピーカー:

論　　題　:

題　　目　:

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 評 価 項 目 | 良かった点 | 改善すべき点 |
| スピーカーに有益な評価か。  　①改善点を具体的に示しているか  　②改善点は実行可能なものか。  　③改善点はだれもが納得のいく  　　ものか。 |  |  |
| スピーカーを力づけたか。  　①批判のみに偏っていないか。  　②良い点を見つけてほめたか。  　③思いやりはあったか。 |  |  |
| スピーカーに伝わりやすい  評価だったか。  　①確信を持って伝えていたか。  　②まとまった評価だったか。  　③声の強弱・抑揚・発音は適切  　　であったか。 |  |  |
| その他 |  |  |

評価者

作成：　堺東クラブ　大仲聰子

　　　　　　　　　　　　　　　　参考：　米子マンデークラブ教育資料

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（カウンスル№7）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　マスターマニュアル2章.・4章